

# 令和3年度草津市立教育研究所第2回運営委員会

日時 令和4年2月4日（金）  
15：30～16：45  
場所 教育研究所 研修室

## 次 第

- 1 開会のあいさつ（教育研究所長 藤井 泰三）
- 2 令和3年度事業の実績と課題について
  - （1） 研修事業について
  - （2） 調査研究に関する事業について
  - （3） 教育相談に関する事業（やまびこ教育相談室）について
  - （4） スキルアップアドバイザー配置事業について
  - （5） その他
- 3 令和4年度の事業計画について
- 4 閉会のあいさつ（教育研究所長 藤井 泰三）

### 令和3年度 草津市立教育研究所運営委員会運営委員 (敬称略)

	団体等	氏名	所属
1	学識経験を有する者	糸乗 前	滋賀大学教育学部教授
2	校長会の代表	高井 育夫	草津小学校長
3	園長・所長の代表	森 登世美	矢倉幼稚園長
4	教頭会の代表	辻 大吾	松原中学校教頭
5	小中学校教員の代表	竹内 美和子	志津小学校教諭
6	市社会教育委員の代表	橋本 篤典	草津市社会教育委員会議代表
7	市PTA連絡協議会の代表		
8	市同和教育推進協議会の代表	高木 洋司	市同和教育推進協議会長
9	公募による市民	山本 忍	
10		宇野 その子	

#### ○研究所職員一覧

		氏名	担当業務
1	所長	藤井 泰三	所内事務の総轄 中学校教員のスキルアップ支援
2	副参事	恒松 睦美	SSW (スクールソーシャルワーカー)
3	指導主事	奥村 真也	所内事務・事業運営全般
4	研究員	陌間 智	調査研究
5	指導員	中谷 仁彦	適応指導教室「やまびこ」 教育相談・学校支援
6		西澤 留美子	
7		鈴木 信之	
8		西村 奈那子	
9	スキルアップアドバイザー	清水 康行	小学校教員のスキルアップ支援
10		山崎 賢	
11		仲野 忠克	ICT活用のスキルアップ支援

## ●令和3年度事業の実績と課題について

### 令和3年度 夏期研修講座について

#### 1 開設講座

新型コロナウイルスの対応により、ターゲットを絞り、人数を制限（各校1～2名程度）して実施した。【一般講座…10講座 くさつ教員塾…3講座】

また、人数の制限によって研修講座へ参加できない先生方に対してNITS（独立行政法人教職員支援機構）のオンライン研修サイトを活用し、研修を行った。

#### 2 受講状況

受講者数（一般講座・くさつ教員塾）… 452名

視聴動画総数（NITS）… 602名（1033本）

#### 3 受講者評価

受講者が講座終了後、または動画視聴後に、満足度を4段階（「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」）で評価。・NITSの動画については「今後に生かせるか」という視点で同様に4段階で評価。「満足」「ほぼ満足」を合わせた肯定的な割合を表記している。

一般講座 平均満足度	くさつ教員塾 平均満足度	NITS 動画
99%	100%	98%

#### 4 成果と課題

##### 【成果】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大対応のため、各校2名の人数の制限は行ったものの、昨年度は実施できなかった対面形式での研修を行うことができた。
- ・LGBTQやSDGsなど、教育の今日的な課題に即した研修を取り入れて実施することができた。
- ・対面研修と動画の視聴を組み合わせたハイブリッド型の研修により、コロナ禍ではあるが、先生方に広く研修する場を提供することができた。

##### 【課題】

- ・対面形式での研修を行うことができた評価があった一方、人数制限を行ったことで希望する教員に希望する研修を受けさせることができなかったという現場の声も出てきた。
- ・今後は、対面形式の講座をオンラインで同時に視聴できるようにしていく方法も考えていく必要がある。

## 令和3年度 自己啓発講座について

1 事業概要 平日の夕方から行う、実技的な演習をメインとする研修講座

2 開設講座一覧（時間は主に、15:50～16:50、実質1時間）

	月日		演題	講師
1	5/20	木	今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる4	滋賀大学教育学部 講師 山田 淳子 さん
2	11/19	金	「考え、対話する」 道徳の授業づくり講座	滋賀県教育委員会 幼小中教育課 指導主事 川村 友子 さん
3	1/17	月	Let's challenge 草津型イメージ教育！！	佛教大学 准教授 赤沢 真世 さん
4	11/26	金	Let's challenge 英語でコミュニケーション！	(株) インタラック関西東海 ALT 講師の先生方
<del>5</del>	<del>1/24</del>	丹	気になるあの子と ～「愛着」を視点～	<b>コロナ対応のため中止</b> 問題サポートチーム会議アドバイザー他 <del>講師 峯本 耕治 さん</del>

3 会場および参加人数…延べ参加者数 49人

	会場	参加人数		会場	参加人数
1	老上西小学校 体育館	24	2	草津市役所 2F 特大	10
3	志津小学校 理科室	10	4	教育研究所 研修室	5

4 受講者評価…全講座平均満足度 100%

	会場	平均満足度		会場	平均満足度
1	老上西小学校 体育館	100%	2	草津市役所 2F 特大	100%
3	志津小学校 理科室	100%	4	教育研究所 研修室	100%

5 成果と課題

### 【成果】

- ・今年度、市内全14小学校に配布された「PU ロケット」を活用してもらうために、新年度の早い時期に実践的な研修を行うことができた。
- ・学校教育課との共催としての講座を今年度は3講座開催することができた。
- ・新型コロナの感染拡大防止の観点から中止になった講座もあったが、昨年度の3講座を上回る4講座実施できた。

### 【課題】

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、毎年好評である図画工作科の研修を実施することができなかった。
- ・先生方のニーズの高い講座を開催することや、開催時期についてはもう少し検討の必要がある。

## 令和3年度 草津市教育研究奨励事業について

- 1 目的（概要） 市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の推進を図る。  
学校・園、学級等の経営や学習指導方法の改善と充実を図る。

### 2 応募部門

①	ステップアップ研究 (現職の経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究 (若手教員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究 (幼稚園・保育所・こども園の職員を対象とした研究)	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとしてまとめることによって教育力・保育力を向上させる実践研究

### 3 応募点数（ ）内は、昨年度の応募数。

部門名	就学前教育	フレッシュ研究	ステップアップ研究	合計
就学前	7 (7)			7 (7)
小学校		21 (24)	8 (8)	29 (32)
中学校		9 (16)	5 (12)	14 (28)
合計	7 (7)	30 (40)	13 (20)	50 (68)

### 4 成果と課題

#### 【成果】

- ・小学校、中学校については、全20校からの応募があった。就学前教育についても、昨年度と同数の応募をいただいている。
- ・「見方・考え方」「不登校」「Teams」「iPad」「学習支援動画」「AIドリル」「チーム学校」等、教育現場における今日的な課題や、教員に求められている資質や能力に関するテーマが多く見られ、先生方の前向きな姿勢を感じる。
- ・今年度は応募締め切り後すぐに論文作成講習会を開催することで、完成までの見通しをもって取り組んでもらうことができた。

#### 【課題】

- ・毎年取り組んでおられる先生方のスキルはアップしているが、初めて応募して下さった先生方の中には、論文の書き方に苦労しておられる様子も見えてくる。論文作成講習会は開いているが、過去の秀作等を参考にしてもらうなど、論文にたくさん触れることができる環境を整えていく必要がある。

# 令和3年度調査研究に関して

1 研究員研究主題 情報活用能力を伸ばすための小学校社会科の授業改善Ⅱ  
～ 一人一台のタブレット端末を活用して ～

## 2 研究概要

小学校学習指導要領において、情報活用能力は各教科の学びの基盤となる資質・能力と位置付けられ、教科等横断的な視点での育成が求められている。本研究の目的は、情報活用能力を伸ばすための授業改善の提案（2年目）である。学習過程において、一人一台のタブレット端末や思考ツールを活用し「主体的・対話的で深い学び」を目指す「New-KAL（新草津型アクティブ・ラーニング）」の視点に立った実践に取り組んだ。

## 3 研究の方法

- (1) 情報活用能力についての意識調査を行い分析し、実態把握をする。
- (2) 実態把握で課題となった情報活用能力を伸ばすための授業設計をする。
- (3) 研究協力校の小学校5年生の1クラスを中心に、一人一台端末を活用した授業実践を行う。
- (4) 授業実践後、再度意識調査を行い、有効性を検証する。

## 4 本研究における授業設計の視点

- (1) 学習者主導で疑問等から学習の課題を立てる流れをルーチン化する。（導入で使う資料の厳選）
- (2) 資料から事実を読み取り、それに対する考えや疑問をもつ力（情報を分析する力）を伸ばすために、導入段階から意見交流をする。
- (3) 自分の考えをまとめる際に資料を選択して使えるように、基本の資料をクラウド上に保存しておく。（資料の厳選と提供）
- (4) タブレット端末上で情報を自分で整理する。（クラウド上への記録）
- (5) 思考ツールを活用し、集めた情報を整理したり、協働的に情報を分析したりする。
- (6) 情報を発信する際には、一方的ではなく相手と意見のやり取りをしながら発表する。

一人一台のタブレット端末については、「文房具」として使えるよう、いつも手元に置き、「いつ使うか」、「どのように使うか」を学習者が主体的に選べるようにする。

## 4 研究の成果と今後の課題

### 研究の成果

- (1) 一人一台のタブレット端末を主体的に活用し、協働的に情報を整理・分析・表現する学習を通して、情報活用能力の「思考力・判断力・表現力等」に関わる力が高まった。
  - ①情報をまとめて表現する力の向上。複数の資料から必要なものを選び、一つのシートに分かりやすくまとめることができるようになった。学習のルーチン化と端末を使ったまとめ例の即時共有化が有効であったと考える。
  - ②情報を整理・分析する力の向上。資料の読み取りを協働的に行い考えを交流することにより、新しい見方や意味を見つけられるようになった。
- (2) 思考ツールが昨年度は紙と付箋であったが、Teamsを使ったPowerPointの協働編集を使いデジタル上で行うことができた。話し合う視点も分かりやすく、交流しながら自分の考えを修正することも容易である。グループの話し合いの様子を電子黒板や各端末で見ることができ、紙よりも共有しやすくなった。

### 今後の課題

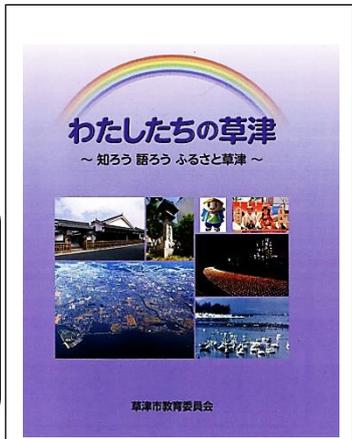
- (1) 本研究をより数値で分析するには、情報活用能力を測る具体的な指標（ルーブリックなど）やテストを活用して学校全体で取り組むことが求められる。しかし実施時間の確保などが課題。
- (2) 資料の読み取り、交流後の書き込みに時間がかかるため、その時間をどのように生み出すかが課題。
- (3) 一人一台端末を文房具のように扱い、児童が主体的にその機能を使えるようにするためには、ICT等活用スキルを一覧化し、児童自身がチェックできる6年間を通したチェックシートが必要である。

# 地域教材（わたしたちの草津）の編集について

## 1. 今年度の取り組み

令和2年3月に発行した新しい地域教材（わたしたちの草津）は3年間分しか発行されていないため、現在の副読本を見直し一部改訂作業を行った。

- ・第1回推進委員会・編集委員会（全体）・・・令和3年5月21日
- ・各委員による取材活動、編集作業等・・・令和3年5月～令和4年1月
- ・第2回編集委員会（グループ毎に）・・・令和3年8月23日，24日
- ・第2回推進委員会（原稿確認）・・・令和3年8月23日，24日
- ・第3回推進委員会・編集委員会（全体）・・・令和4年2月15日予定



編集委員の先生方には、問題解決的な学習に導けるような紙面構成になっているか（児童が資料をもとに主体的に課題を考えられるか）、写真やグラフなどの資料は新しく適切かという視点で編集作業を行っていただいた。一部の予定だったが、よりよいものという思いから大幅改訂となった単元もあった。現在最終確認の段階。来年度に業者選定の上、印刷発行。令和5年度春に配布予定である。

## 2. 成果物

### 「わたしたちの草津」一部改訂版の原稿

より問題解決型学習になるように、はじめに見せる資料を考え順番を入れ替えたり差し替えたりした。また最新の資料をいれたり、調べ学習の時間短縮をねらいQRコードを挿入したりした。

さらに、草津市の白地図・土地利用図についても新しい道や公共施設等ができていないかなどの確認作業を行っていただいた。

**7**

わたしたちが住んでいる地いまでは、今までにどのような自然災害が起こったのでしょうか。また、自然災害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。

1909年 姉川地震被害  
1981年 五ヶ家雪崩被害

12017年 姉川が増水した時の様子

12021年 草津市土砂災害の様子

**① 自然災害から命を守る**

つかむ 滋賀県では、昔どのような災害が起こったのでしょうか？

見方・考え方のポイント

いつ起こるかわからない災害にそなえて、どのようなことができるか考えよう。

より学習指導要領に合わせた紙面構成に

最新 2021 年の災害の写真

環境教育の視点からSDGsマーク

すぐに調べられるようにQRコード

名神高速道路  
名神高速道路付近 (1988年ごろ) | 名神高速道路付近 (2008年ごろ)

JR草津駅付近 (1988年ごろ) | JR草津駅付近 (2008年ごろ)

出典：国土地理院<国土地理院の地図を改編>

**土地の様子**  
土地の様子がわかる航空写真を見て、気がついたことを話し合いました。

「新しい高速道路ができていね。」  
「山地の面積はせまくなっているね。」  
「田んぼがへって、家がふえているね。」  
「人々のくらしはどのようにかわったのかな。」

**気づく**  
草津市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのだろうか。

**見方・考え方のポイント**  
草津市の土地の様子がかわってきたのは、なぜだろう。  
人口の変化、交通の様子の変化とつなげて考えてみよう。

## 3. 来年度に向けて

新しい地域教材（わたしたちの草津）を改訂し内容が一部変更するため、指導書（実践事例集）・ワークシート・評価テストを見直す必要がある。特に指導書については、新規採用職員や他市町から来られた先生でも使いやすいように改良が必要である。令和5年度からの活用に向けて編集委員の先生方と相談しながら進めていきたい。また発行に当たっては、訂正等のないようにしっかりと校正作業をしていきたい。

## 令和3年度 適応指導教室『やまびこ』

### ○ 今年度の取り組み（成果）

#### ①学校への復帰

適応指導教室に在籍する中で、学校や保護者と話し合い、本人が無理のない学校との関わりを探っていく中で

⇒ほぼ毎日、別室を中心とした登校が可能になった。

⇒学校に登校できなかった状態から、定期的に登校（別室、放課後等含む）できるようになった。

⇒月に数回程度でも放課後登校したり家庭訪問で担任と会ったりできるようになった。

#### ②特別活動を通して

毎月イベントを設定し、活動する中で

⇒行事に参加できたり作品を完成させたりすることで、達成感を得ることができた。

⇒苦手なことや初めてのことにも挑戦してみようとする気持ちが持てるようになった。

⇒出前授業や調理実習のような学校での活動に似た交流を小集団の中で体験できた。

#### ③様々な人やものとの関わり

家族以外のひとやものとのふれあいを持つことによって

⇒多くの子どもが異年齢の小集団の中に入り、他者と一緒に活動（ゲーム等）できるようになった。

⇒自分以外の人の行動や興味のあることに関心を寄せるようになった。

#### ④子どもの変化

同年代の子ども同士の交流や小集団での活動を行う中で

⇒表情が和らぎ、居場所の一つとして通室できるようになった。

⇒お互いのしていることや会話に耳を傾けたり注目したり、他を意識して生活するようになった。

⇒好きなこと興味のあることをして認めてもらうことで、自分に自信を持てるようになった。

#### ⑤情報の共有

保護者、学校、他機関と面談や情報交換することで

⇒個々の子どもの様子や抱えている問題について共通理解が図れ、目指す方向性を共有することで、その子に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

### ○ 今後の課題

・面談や情報交換、支援の検討会をさらに充実させ、子どもの抱えている課題や現状を見つめながら、安定して過ごせる環境づくりと学校復帰の手がかりを探る。

・小集団で過ごすことや活動に参加することへの抵抗感を抱く子どもがおり、生活リズムを整え安定して通室できる、または定期的に通室し同年代の子どもと顔を合わせることができるよう環境整備および本人、保護者との関わりを目指す。

・本人および保護者が中学卒業後も安心して生活できるように、他の相談機関へつなぐ等、手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。

## 令和3年度 教育相談に関する事業

### 1 目的

- ・不登校および不登校傾向にある児童生徒とその保護者に対して教育相談を行い、解決に向けての支援を行う。
- ・学校と連携し、不登校等の問題解決に向け、ケース会議等を通して支援する。

### 2 今年度の活動状況

- (1) 「やまびこ教育相談室」のパンフレットを各学校、関係機関に配布。市内の小中学校を通して全保護者宛てに案内チラシを年間3回配布。(5月、9月、11月)「教育研究所だより」で教員向けに活動内容と利用方法の説明掲載。説明、交流のために学校訪問を実施。

- (2) 教育相談の活動状況 令和4年1月20日 現在

#### ①相談者延べ人数 (前年度同時期との比較)

年度	R3	R2
面談	360	311
電話相談	147	125
相談件数合計	507	436

相談内容(主訴)はほとんどが不登校、または行き渋りで、友人関係、集団不適応、学習困難、子育て、学校・教師の指導については少数である。

#### ②相談者の内訳 (前年度同時期との比較)

相談者	保護者		小学生		中学生	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2
面談	205	163	69	61	85	85
電話相談	143	109	2	1	1	3

#### ③相談対象者の内訳 (前年度同時期との比較) その他は省略

相談対象者	小学生		中学生	
	R3	R2	R3	R2
面談	155	138	205	173
電話相談	65	46	78	76

今年度は、小学生と中学生の相談がほぼ同数。きっかけは「チラシを見た」が多い。

### 3 学校支援

児童生徒により良い支援を行うため、学校と連携し、ケース会議、電話や面談による情報交換を行っている。教職員からの保護者への当室の紹介や、教職員から当室に事前に連絡が入ることも増えてきている。

### 4 今後の課題

- すべての教職員にやまびこのシステムを十分理解してもらえるよう働きかける。
- 不登校等の課題を抱える児童生徒について、学校との綿密な連携の中で、家庭環境・個人の性格傾向・発達の課題等を総合的に把握、検討し、早期に適切な対応を図る。

令和3年度

## スキルアップアドバイザーの活動状況(支援訪問回数)

(支援講座)

令和4年1月25日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
志津小	2	1	2				2	3		1	2		13
志津南小	2	1	2				3	3	2	1	2		16
草津小	2	2	1				2	2		2	1		12
草津第二小	2	1	2				2	2	1	1	2		13
渋川小	1	2	1				1	1	2	1	2		11
矢倉小	2	1	2				2	3	1	1	2		14
老上小	2	1	2				2	2	1	1	2		13
老上西小	1	2	3				3	2	2	1	3		17
玉川小	1	2	2		1		2	1	2	1	2		14
南笠東小	1	2	2				1	2	1	1	2		12
山田小	1	2	1				1		2	1	1		9
笠縫小	1	2	1				2	2	2	1	2	1	14
笠縫東小		3	1	1			1	2	2	1	2		13
常盤小		2	2				2	1	1		2		10
高穂中	2	1	1			1	2	1			2		10
草津中	1	1	1				2		1	1	1		8
老上中	1	1	1				1	2	1	1	2		10
玉川中	1	1	1					1	1		2		7
新堂中	1	1						1	1		2		6
松原中	1	1	1					1	1		2		7
初任者研修													0
夏季講座													0
合計	25	30	29	1	1	1	31	32	24	16	38	1	229

令和3年度

## スキルアップアドバイザーの活動状況(支援者数)

(支援講座)

令和4年1月25日

現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
志津小	3	2	4				2	3		2	3		19
志津南小	2	3	3				2	2	1	2	2		17
草津小	3	4	2				2	2		4	1		18
草津第二小	3	2	4				2	2	1	2	3		19
渋川小	1	4	2				1	1	2	1	4		16
矢倉小	3	2	3				2	2	1	2	1		16
老上小	3	2	4				2	2	1	2	3		19
老上西小	1	4	6				3	2	2	1	6		25
玉川小	1	4	4				2	1	2	2	3		19
南笠東小	1	4	3				1	2	1	2	3		17
山田小	1	2	2				1		2	2	1		11
笠縫小	1	4	2				1	2	2	2	3		17
笠縫東小		5	2	2			1	2	2	2	3		19
常盤小		3	4				1	1	1		4	1	15
高穂中	3	0	3			1	2	1		1	2		13
草津中	1	2	2				3		1	2			11
老上中	1	2	3				1	1	1	1	2		12
玉川中	1	1	2					1	1		2		8
新堂中	1	1						1	1		2		6
松原中	1	1	3					2	1		2		10
初任者研修													0
夏季講座													0
合計	31	52	58	2	0	1	29	30	23	30	50	1	307

教科書展示会（令和3年度）

期間：6月4日（金）～7月1日（木）（日・月曜日を除く）

場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）



のべ42人の方が来場しました！

「研究所だより」&「所報」の発行について

★「研究所だより」：年間数回を基本に、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付

★「所報」：1年間の取り組みをCD-ROMにまとめ、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付

## 令和4年度の事業計画について

### ●職員の研修に関わって

- ・教職員および保育士の資質向上に資する事業を展開する。
- ・草津市の教育および保育向上を図る事業を展開する。
  - ①草津市教職員夏期研修講座 … 10講座程度を予定
  - ②自己啓発講座 … 5講座程度を予定
  - ③教育研究奨励事業 … 市内20小中学校から1本以上の応募を目指す

### ●調査・研究に関わって

- ・学習指導要領（H29告示）に対応した教育課程に関する調査、情報収集を行う。
- ・研究員による調査研究を継続する。
- ・R5から使用分の製本業務とともに、副読本「わたしたちの草津」の活用を促進するために指導書（実践事例集）やワークシート、評価テストの見直しも行っていく。

### ●スキルアップ事業に関わって

- ・小中学校教員の授業づくり、学級づくりへの指導支援を行う。
- ・ICT機器等を活用した授業づくりをサポートする。
  - ①対象教員に対する個別指導を行う。
  - ②夏季研修講座でのICT機器を活用した授業づくりの演習を行う。
  - ③プログラミング学習の支援を行う。

### ●教育相談に関わって

- ・不登校および不登校傾向にある幼児児童生徒とその保護者への支援を行う。
  - ①電話および来室による教育相談を実施する。
  - ②学校および関係機関と、課題解決に向けての連携を密にする。
- ・適応指導教室「やまびこ」における小集団活動を通して、児童生徒の学校復帰を目指す。
  - ①タブレット端末を使った学習支援。
  - ②学生ボランティアの活用。